

【環境生活部長賞】

安全な水に感謝して

登米市立米山中学校

三年 浅田陽々葵

人間にも、動物にも、魚にも、自然にも、生きるために欠かせない水。私にとっては身近なものに感じるけれど、そう感じるのには一部の人間だけかもしれないと思います。

私は以前、ユニセフのCMを目にしました。エチオピアに住むある少女は、暑い暑い砂漠で水を得るためだけに、一日八時間もの時間を費やすといます。けれど、どんなに苦勞しても得られるのは茶色く濁った水。彼女たちが生きていくには、その水さえ飲むことを強いられると思うと、心が痛くなります。日本では、蛇口を回せばすぐにきれいな水が出てくるので、私たちの当たり前と感じているものと水不足に困る人たちの当たり前前の生活との大きな違いに驚きました。

では、水が豊富な地域とそうでない国の違いはなんなのでしょう。私は、二つのことに着目して考えてみました。一つめに着目して考えたことは、自然の中の水の循環です。私たちがよく購入するペットボトルに入ったようなミネラルウォーターは、地下水からくみ上げられているそうです。地下水は、初め海などから蒸発して上空で雲になり、雨や雪となって地上に降ってきます。その後、土の中にしみこんで、砂や岩などでゆっくりろ過されていったものです。地下水は、きれいにして飲む以外にも、川や海に流れこんでいって、またそれがくり返されていきます。日本は周囲が海に囲まれ、山地もたくさんあるため、水がうまく循環できて、水不足になることがあまりないのだろうと考えました。次に着目したことは、浄水設備についてです。私の弟は今小学生で、工作や実験が好きでよく色々なものを作っています。以前は浄水場見学に行った事をきっかけにペット

ボトルで浄水装置を作ったのですが、うまくいかなかったようでした。それを見ていて、日本の浄水技術のレベルの高さに、改めてすごいなあと思いました。日本では、この浄水設備が全国的に広く整備されているため、きれいで透明な水が、ほとんど全部の地域で安心して使えるのだろうと考えました。この二つから、水の豊富な地域とそうでない地域の違いは、水の循環と浄水設備の技術の発達に差があるからなのではないかと考えることができました。

日本では、きれいで安全な水が使えて、本当にすばらしい国なのだと思います。でも、そんな国だからこそ、大きな災害があった時は、水も思うように手に入らない大変さも経験しました。だから、水の無駄づかいは絶対にしてはいけないと思いました。私も、お風呂そうじをする時に、泡を使う量を減らして洗い流すための水量をできるだけ少なくしたり、手を洗う時に水を出しっぱなしにしないようにしています。中学生の私にできる節水はこのくらいですが、それで毎日心がければ、一ヶ月後、さらに一年後にはかなりの水を節約できると思います。これからも、水を大切に使っていきたいです。